

2019 年度 第 4 回 日本建築学会関東支部埼玉支所役員会 議事録

日 時 2020 年 1 月 20 日(月)18:00～20:10 埼玉建設会館 2 階会議室

出 欠 ■時田芳文 ■市川 毅 ■樋口和男 □市川 均 ■宇杉和夫 □大竹由夏 □梶芳晴
■木下芳郎 ■朽木宏 ■桑田仁 □佐藤泰 ■白江龍三 ■徐華 □鈴木弘樹 ■高岡敏夫
□戸田都生男 □永峰麻衣子 ■原口剛 ■日色真帆 □平野隆 ■古里実 □三浦清史
□水村容子 ■八代克彦 ■若林祥文 □宗政由桐 □宮崎均
■大槻淳一(事務局長) ■黒田智之(事務局) □隅倉陽子(経理)

配布資料 2019 年度第 4 回役員会 議事次第

日本建築学会関東支部埼玉支所シンポジウム 企画資料

2020 年度 第 20 回 埼玉住まい・まちづくり交流展 企画資料

訪ねたい場所+使い続けたい建物・たち 100 選 企画資料

1. 日本建築学会関東支部埼玉支所シンポジウムについて

・宇杉氏が作成した企画案に基づき説明があった。

・主な議論の流れを下記にまとめる。

(時田)シンポジウムは宇杉先生を中心に樋口顧問、日色先生、桑田先生で企画を進めていただいている。

(樋口)原稿募集とあるが、書き方などがあるとイメージしやすい。どのタイミングで資料集を発行するのか。

(宇杉)原稿募集については手直しする。シンポジウムの前に資料集をつくる。

(白江)シンポジウムの最終的な着地点を教えてください。

(宇杉)委員会は 7 年前に動き出し、学会のスタンスを考えるものであったが時間が開いてしまった。その間に活動が活発化し、これを整理しないとならない。制度は動いている。ヘリテイジマネージャーができるものできないものなど、話す土台としたい。

(樋口)従来、都市計画法と建築基準法の二本立てで街を作ってきた。これからはコミュニティアーキテクトを使うことについて確認する、確かめることではないか。

(時田)支所で状況を確認するということである。

(徐)地域の特性などのデータをそろえるのか、職業としての制度を整えるのか、その場合兼任とするのか。

(白江)職として成り立つのか気になっている方が参加すると思う。3 年後にアーキテクト機構を作ることを目指すのか。制度化されるのに 3 年かかることが多い。

(樋口)地域を知っている人に地域にあった街とするためのゼネラリストとして資格を与えるなど。

(日色)コミュニティアーキテクトなどは何を行っているのか把握することから始めるという位置づけの会とする。それぞれ交流を深め、それぞれの思いを確認する機会になる。

(桑田)最後の提言から 7 年経過している。地域を編集する人が眠っているのではないか。具体的な事例をまとめたい。

2. 2020年度 第20回 埼玉住まい・まちづくり交流展について

- ・木下氏より前回の役員会でまとめた意見をもとに企画案を作成いただき、これに基づき説明があった。
- ・主な議論の流れを下記にまとめる。

(木下) 諸事情により春日部市東口のまちづくりから中心市街地をテーマに変更した。

(古里) 地元の方との交流が大切だが、住民の方はウェルカムなのか。市役所内部に温度差があるとのことなので、考え方が気になっている。また、1日開催だが、先生方の持ち時間が少なく消化不良にならないか。

(木下) 計画が具体的になっていないので市としてはウェルカムである。また住民はこうしたいというニーズがある。行政がとまっているので学生が間に入って大学が道筋をつけていくことについては歓迎されている。

(古里) 外部主導が地元の活動を妨げることはないように注意する必要がある。

(木下) 学生が具体的な話をして、最後に先生のコメントをもらって少し多く話していただく。

3. 訪ねたい場所+使い続けたい建物・たち 100選について

- ・若林氏が作成した資料に基づき説明があった。
- ・主な議論の流れを下記にまとめる。

(若林) 1950年までは調査済みで、それ以降の調査をすすめたい。予算50万円は県の補助金を利用する。

(時田) 国交省の小林氏からまちづくりスクールを作りたいと提案があった。まずは50名程度公募し、勉強会をしたい。支所が主催して協力してほしいとのことである。今後詰めていきたい。

以上

記録: 黒田智之